

多摩偕行会30年度総会

多摩偕行会（会長・森繁弘・陸士60）は、9月22日（土）、陸自小平駐屯地の格別のご協力を受け、平成30年度総会を開催した。当日は停滞していた秋雨前線も、私たち参加会員30名の長寿と健康を祝福するかのようには好天となり、賑やかに整齊と実施することができた。

総会は例年通り、総会・講話・懇親会の3部構成で行われた。

総会における挨拶の中で、森繁弘会長は、明治百五十年の意義について述べるとともに、安倍晋三自民党総裁が連続3選を果たされたので、かねてから最大の懸案であった憲法改正の早期実現に対する強い期待感を表明された。続いて深山実行委員長（陸自57）からの会務報告、並びに熊谷会計係（陸自57）からの会計報告があり、特に質問もなく総会を終了した。

第2部の講話は、小平中学校長の勝井省二陸将補（陸自86）にお願いした。

熊本地方協力本部長として勤務されていた当時の平成28年4月に発災した、「熊本地震」における災害派遣部隊の活動を支える立場からの、貴重な現場体験に基づく教訓などについて具体的にお話をしていたので、次に要約して紹介する。

① 「天災は、忘れた頃にやってくる」とよく言われるけれども、「熊本には大地震はない」ということが、本部長着任の際に各地方自治体を巡回した際に、共通の認識として感じられたことであった。

何時、どこで、何が生起しても即応できる態勢の準備として、各地方自治体における防災担当者・自衛官OBが勤務することの重要性を確認できた。

② 地方協力本部（以下、地本と略称）における募集・広報活動用の地域に密着した平素の組織網は、緊急事態対処に当たり、極めて効果的に役立つことを立証した。

即ち、地方自治体に派遣できる部隊からの連絡幹部の制約を地本の要員でカバーすることができ、また派遣地域に慣れない地域からの来援部隊に対する案内や誘導及び基地設定などの補助、高齢者及び障害者など弱者のサポート、物資の調達・補給、あるいは留守家族の安否確認などの分野で、地本の勤務者は非常に活躍して成果を上げた。

③ 各地に開設された避難所における組織的運営や円滑な機能発揮のため、自衛官OBが果たした役割は極めて顕著なものがあつた。

特に、学校などの避難所においては、教職員とOBがタイアップすることによって、迅速に、整齊と組織的な運営体制が整備された。

第3部の懇親会は、隊内クラブで実施し、小平学校から勝井校長、山口副校長、松前総務部長にご来賓としてご参加いただいた。

最初の乾杯を有賀亮会員（陸士59）にお願いして開始。有賀氏からは、終戦当時の陸軍士官学校の状況を紹介していただいた。飲食の間、会話も弾み、和気藹々のうちに森会長をはじめ有志多数からお得意の歌（軍歌・浪曲）や踊り、謡曲等も披露され、懇親・親睦を深めることができた。やがて恒例の軍歌・隊歌演習となり、小倉健男会員（陸士61）のリードで皆が合唱し、「血潮と交えし」・「空の神兵」・「この国は」と続き、「陸軍士官学校校歌」で締めくくられた。

名残りは尽きない思いではあつたが、最後の万歳三唱を、定年退官後の人会予定者・深谷一佐（陸自88）の若さ溢れる元気な音頭で締め、また来年の再会を約束して別れた。